

拜啓益御清穆奉天賀美陳者今般政府ヨリ提出  
相成増税案ニハ政黨ノ領袖連中ニモ反對ノ  
論者有之其由果ニラ然ラハ愚甚ク惑ヒ美増税  
案ハ人民各箇ノ負擔ヲ増加スルモノニ付世界  
ノ大勢ニ通セズ國家利害ノ何物タルヲ瞭解セ  
可ル汝ハタル徒輩カモモ反對スルハ固ヨリ怪  
ルニ足ラサレトモ政黨ノ領袖在ラハ他日  
現政府ニ代ツラ樞機ヲ握ルノ氣概アル者ナレ  
ハ今日現政府ヨリ敢テ發案シタルヲ好機トシ  
テ政府ノ身代豐饒ニ爲シ置キテ後也ニ代リテ  
充分ニ其経綸ヲ施スヲ得策トス可シ賦資饒ナ  
ラサレハ如何ナル経綸策モモテ施スニ術ナカ

ル可シ若シ現政府時代ニ増稅案ヲ通過セシメ  
スシテ現政府カ倒レタルトキハ此ニ代リシ政  
黨内閣ハ是非トモ増稅ヲ爲リ、ルヲ得ナルニ  
非キ同一ノ困難ニ遭遇ス可シ而シテ其間ニ於  
テ國家民人ノ損害ヲ受クルエト測ル可カラサ  
ルモ、アラシ又行政整理ニ伴ハサル増稅案ニ  
ハ反對ナリトシテ論モ不甚々威服難致美若シ現  
政府カ完全ニ行政整理ヲ成シ遂ケシナラハ反  
對黨ハ何ヲ以テ現政府ヲ攻撃スル事ヲ得ルヤ  
現政府ヲシテ唯々増稅ノミヲ爲リシナ而シテ  
行政整理ト財政整理トハ反對黨カ現政府ニ代  
リタル後之ヲ完成シテコソ及對黨、反對黨々

池田印行

ル所以ニシテ永ク天下ノ望ヲモ維クコトヲ得  
可シト存候閣下ノ明固ヨリ御同論ナル可シト  
奉察案ニ存テハ政黨、領袖連中ニ算ト稀説論  
被ト候獨リ政黨、幸ナルノミナラス國家民人  
ノ大幸ト奉存矣

頌首

明治三十一年

木村 作 太郎

六月五日

大隈伯對閣下

池田印行